

2015.6.1

## 小原院長の“いま一番気になる人・仕事”スペシャル対談

### まる×小原忠士

平成2年の開院以来、25年間にわたり地元連島を中心に多くの住民の方から信頼を頂き、皆様の健康に貢献してきた小原整骨院。その小原院長が“いま一番気になる人・仕事”というテーマで、ゲストの方と対談をして頂きました。今回は、地元倉敷を中心に、積極的にライブ活動をしているギタリストの「まる」さんをゲストにお招きし、ギターの魅力について語り合っていました。(2015年5月28日(木)小原整骨院にて)

「家の中を探したら、ボロボロの琴とクラシックギターが出てきて、  
3秒悩んでギターを手にしたんです。」

#### ゲスト紹介

##### ■ まる (ソロギタリスト)



1976年9月4日生まれ。倉敷市出身。ソロギタリスト。ギター1本の演奏だけで景色や色、人物や動物、季節や心を表現するギタリスト。彼の奏でるギターは、心地よい情景をイメージさせ、聴いている人の心をそっと包み込み、穏やかな気持ちになれる、心に響く音色である。2012年おかやま国際音楽祭エンターテイメントチャレンジにおいてグランプリを受賞。4枚目となるアルバム「ハジマリの唄」を全国リリース。主に岡山県内、近県で精力的にライブ活動中。

##### ■ 小原忠士 (小原整骨院 院長)

1964年 倉敷市出身。地元である倉敷市連島で開院以来 25年にわたり地域の皆様の健康に貢献してきた小原整骨院の院長。柔道整復師としての技術力は当然、その穏やかな人柄で多くの患者に慕われ、スタッフからの信頼も厚い。6月には株式会社エミリンクとして法人設立。代表取締役となる。



株式会社エミリンク (小原整骨院)

Copyright (c) 2014 Emilink.Co.,Ltd. All Rights Reserved.

## ■ 司会進行 俣野浩志（株式会社パッション）

1970年 岡山市出身。一般社団法人ウェブ解析士協会認定 初級ウェブ解析士。経営修士（MBA：香川大学大学院地域マネジメント研究科）。大学でマーケティングを学んだ後11年間印刷・デザイン業界に勤務。2009年に岡山県産業振興財団主催のベンチャー・ビジネスプランコンテストにて奨励賞を受賞。2013年大学院にて「住民主体の体験交流型プログラムが地域社会に与える影響についての考察」というテーマで、NPOのまちづくりを研究した。

ギターの魅力は音色にあると思うんです。弦を弾く時の微妙なタッチで音が変わるんですが、そこが素直に音として現れる…。アコースティックギターは誤魔化しがきかない。

司会：今回は地元倉敷市で積極的にライブ活動をされているギタリストのまるさんにお越しいただきました。まずは小原先生とまるさんとの出会いを教えてください。

小原：まるさんとの出会いは、知人Mさんの紹介でした。アコースティックギターの音色が好きで、押尾コータローの曲を良く聴いていると話したら、Mさんが「それなら地元にも、押尾コータローのようなテクニックを持ってる素晴らしいギタリストがいるよ」と。

まる：Mさん宅にはよくお邪魔しており、小原先生のお話は聞いていました。小原先生がギターが好きだとお聞きしましたので、今日のご依頼の私のCDを4枚持参させて頂きました（笑）。

小原：まずは、ギターを手にしたキッカケからお伺いしたいと思いますけど…。

まる：小学校の時に、ピアノの発表会で弾く妹の姿を見て凄いと思って、自分も楽器を始めようと…。家の中を探したらボロボロの琴とクラシックギターが出てきて、3秒悩んでギターを手にしたんです。



が下手だったって言ってました。

小原：琴とクラシックギターですか！さすがに琴はなかなか…。ご家族もやはり音楽好きなのですか？

まる：そうですね。うちの家族はみんな音楽が好きですね。クラシックギターは母親のものだったんですが、若い時分にギターを買って弾いていたらしいです。フォーク世代ですね。でも途中で私にはできないって気付いてやめたらしい。父もドラムをしていたんです

小原：では小学生の頃からギターを始められたのですね。独学で？

まる：そうです。小学校6年生の時からギターを始めて、中学からはバンド活動もしていました。でも実はドラムだったんですよ！その頃は、ギターは家での遊びというか…。ド

ラムは18歳から2年ほど習っていただいたんです。

小原：ほう。そうなの？

まる：ええ、家でZIGGY（'80後半～'90に活躍した日本のロックバンド。代表曲「GLORIA」はドラマの主題歌としても有名。）とかハードロックをよくコピーしてました。当時はエレキギターが好きで、アコースティックギターなんてギターじゃない！って思っていましたね。それが今は全くの逆で、エレキを触ることがない。

小原：それほどアコースティックギターには魅力が？

まる：そうですね。アコースティックギターの魅力は音色にあると思うんです。エレキは電氣的に音を出すので、繊細さという面ではアコースティックには勝てない。例えば弦を弾く時の微妙なタッチで音が変わるんですが、そこが素直に音として現れるんです。エレキではエフェクター（音を電氣的に加工する機械）なども使って歪んだカッコイイ音とかにするので…もちろん繊細な表現もできるんですが…。アコースティックもマイクが内蔵してあって音は拾うんですが、加工はしないんです。その分アコースティックでは誤魔化しがきかない（笑）。それも魅力です。

小原：確かに、目の前で弾いてもらっていますが、ギターに詳しくない私が見てもすごいテクニックを駆使されてるんだな～ってわかります。でも音として聞こえるのは、綺麗な音色で、すう～と耳に入ってきますよね。心地良いです。

まる：ありがとうございます。ギターを語りだしたら、マニアックなレベルまで語っちゃいますけど、良いですか（笑）。ギタリストというとテクニックの話が多いのですが、実は自分のイメージを音として表現するのに、テクニック以外の面も大切なんです。

ギターでは指板（弦を押さえる部分。フレットと呼ばれる金属が打ち込まれていて押さえる位置で音が変わる）を押さえてドレミファを弾くのですが、同じドレミファは1本のギターの中に無数に、12箇所くらいかな？あるんです。例えば、「ミ」という音は、1弦開放（1弦を押さえないで弾く）、2弦4フレット、3弦9フレット、4弦14フレット、5弦19フレット。これ全部同じ「ミ」という音が出せるんです。でも弦の太さ、押さえているフレットとブリッジとの間の弦の長さで音程が一緒でも音色が違えます。なので、同じ音をどの弦で出すかでも曲の雰囲気が変わるんです。運指（押さえる順番やコードなど）で押さえられる位置にあるかどうかにもよりますね。ダイナミックな表現をしたい時などは、弦の振幅が大きい開放弦を入れて、音に広がり感をだしたりします。なので同じ音をどこで出すかっていうのはセンスだったりします。ギターを始めたばかりだと、簡単に押さえられるのになんでこんな難しい押さえ方をしてるんだ？っていうのがよくあります。逆に同じように弾いているのにニュアンスが全く真似できないってことも…。



小原：へえ～！かなり深い世界があるんですね。面白いでしょうね！

まる：面白いですよ！もっと言えば、材質が音色に与える影響も大きいです。例えば、ローズウッドは、はっきりした音色で音の伸びが良いんですが、中音域の表現に関してはマホガニーの方が音が良いとか…。僕のギターは「Yokoyama Guitars」を使っているのですが、オーダーメイドで、柄や材質などを指定しています。材はインディアンローズウッドなのですが、ジャックを5ピンにしてノイズを減らしたり…このシステムだけで…万円結構します。ギター自体は40万円くらい、オーダーして1年くらいかかるんですよ。制作中はここまで出来ましてって写真で報告が来るので、手に届くまでの期待感は半端ないですが(笑)。もう8年使っているんです。今度は材がマダガスカルローズウッド、ホンジュラスマホガニーなど深い音色が出せるギターが欲しいんです。贅沢言えば、ハカランダという最高級の材を使ったギターがいいんですけど、この材は入手が非常に困難で…軽自動車1台分くらいかかるんで…。月に1万円貯金しているんですけど。欲しいギターを手に入れるのは192ヶ月後になりそうです(泣)。



小原：それは、確かに1台分だ(笑)。まるさんはライブ活動を積極的に行っていますが、どんなところにライブの魅力が？

まる：ライブは、定期的に行っているもの、ワンマンライブ、依頼を受けての演奏などがあるんですが…。ライブの魅力、一番楽しいのは、自分でカフェや中ホールを借りてやっているライブですね。県外での活動なども楽しいです。全国各地の仲間

が呼んでくれるんですよ。東北(岩手)や関西、四国などでも演らせてもらいました。仕事で演奏する時、ホテルのビアホールでのバックミュージックやイベントなどは、BGMだから自分のやりたいことができないのと、お客さんとのコミュニケーションがNGだったりするので…逆に惹き込ませてやるぞ！っていう思いでやっています。楽しさという面では、やはり自分のライブですね。ワンマンだと15曲ほど演奏するんです。普通のライブハウスだと5曲くらいで30分とか、6曲40分とかが多い。MC入れながら。

「気まぐれ！メンズトーク」に出演させて頂く、次の日に大阪に行くんですが、大阪でのライブがまた楽しいんです。ご存知の通り大阪は笑いの敷居が高いんですが、サザエさんのエンディングなどのアニメソングや、スーパーマリオのゲーム音楽をギターでネタみたいに弾くんですが、それで大爆笑が取れるんです。本場大阪を笑わしたぞ！掴みはOK！みたいな(笑)。

小原：達成感を感じる方向性が少し違う気もしますが、確か…ギタリストですよ(笑)。

まる：はい、ギタリストです…たぶん(笑)。

小原：たぶんって…。まっ、冗談はさておき、緊張などはするんですか？

**まる**：緊張はあまりしないです。ライブは結構の数をしているので、月に7、8本していたので慣れましたね。初めての場所だったら緊張よりワクワクします。ライブの魅力ということではないのですが、エレキからアコースティックギターに転向したキッカケがライブだったんです。といっても友人の結婚式で **Mr.Big** の曲を弾くことになり、アコースティックギターで演奏したんですが、その時、アコースティックギターだと「場」の空気を一発で変えることができるんだと気付いたんです。やはり木の音色なんですよ。心地良いのは。

**小原**：まるさんの曲は優しい雰囲気の心地良い曲が多いんですが、曲作りなどでどんなことにこだわったり、意識したりしていますか？



**まる**：意識しているというか、環境から受ける影響は強いと思います。「赤い月」という曲があるんですが、こういう柔らかい曲の方が僕のカラーにあっていると思います。確かに僕のギターはどちらかというとバラードが多いんです。生まれ育ったのが倉敷の西の方、玉島と金光の境で自然豊かなところだったことも影響しているのかもしれませんが、「茜空の帰り道」という曲があるんですが、この曲はライブのラストに弾く曲で、

小学校の通学路をイメージして作った曲なんです。当時は未舗装の土の道で、今は無いんですけど、そこをとぼとぼ帰っている情景を曲にしているんです。岡山に住んでいるから書けると思うのですが、自然をテーマにすることが多いので、都会に住んでいると書けないですね。心にゆとりがないと…。結構自然が好きで、遥照山で弾いたりしています。自然の中だと弾いていて気持ちがいいんですよ。自然以外では、今自分が一番強く感じた感情を表現したりとか、例えば「そら」という曲は、娘が生まれた時の気持ちを表現した曲なんです。

日常生活から受ける感情をそのまま曲にしていることも多いですね。普段、毎日2時間夜中に練習するんですが、クロマチックトレーニングといって、基本的な運指のトレーニングをしながらテレビを見るんです。そんな時見ていた番組が、辰吉丈一郎の引退後のドキュメンタリーをしていて、そこからインスピレーションを受けてできたのが「パンチドラッカー」という曲です。この曲は割とハードな印象の曲で、オープンDチューニングといって普通のチューニングとは変えているんです。それにより曲の印象がぐっと変わります。コードも変わってきます。「ブラックビート」という曲もオープンチューニングですね。この曲では、低音弦を弾く時に親指の表と裏を使って弾くんです。この奏法はプロでもやらないので「どうやってんの？」と聞かれるんですが、疾走感などが欲しい時に使います。

曲作りもテレビを見ている時とか、普段の何気無い生活から、ふとしたことでイメージが膨らんで、先にイメージを固めてしまうんです。そのイメージ通りの音を探すように作っていくんです。こんなタイトルの曲でこんな雰囲気の曲みたいに…。鼻歌から作ることが多いです。それを忘れない程度に譜面にしています。ですから、こだわりとか意識しているということかというと、イメージ通りの音を探すことかもしれません。

**小原**：なるほど、自分の感情や情景など漠然としたものを音で表現して人に伝えるのって難しいですよね。まるさんのこだわりはそこですね！自分の中の感情をどう表現したら伝わるかということですね。

**まる**：そうですね。感情を音で表現するって、これで完成って、そういうことが無いんですよ。テクニック的にも、表現力にしても、頭で音が鳴っていても探さきれないとか、自分が成長すると違った演奏ができるようになって、こんな音だともっと良いんじゃないかとか…やりたいことが尽き無いんです。例えば、ギターを二本重ねてレコーディングしたら表現は無限大になるし、大きな会場ではサポートミュージシャンを入れてライブをするんですが、そのメンバーが素晴らしいんですよ。3人編成で鍵盤とパーカッションを入れてするんですけど、ソロとは違った魅力が出せる。

CDも作っていますが、音にこだわりすぎて、納得するものが出来ないんです。パーフェクトに録音したいが、録ったらどこかに粗さがあって、納得出来ないんです。自宅で録ろうと思っているんですが、スタジオの方が機材が整っているし、それにエンジニアの力によってかなり出来が違うんで。まる2日かかるので結構大変なんですけれど…。

**小原**：そこが趣味で楽しみたい人と、ホントに好きで突き詰めていく人のこだわり度合いの違いでしょうね。ギターを始めたのは小学生と言われてましたが、小さい頃の夢もギタリスト？

**まる**：いえいえ。小さい頃の夢は刑事（デカ）です！「あぶない刑事」の柴田恭兵や舘ひろしに憧れて…。あぶない刑事が終わったと同時に目が覚めましたけど…（笑）。

**小原**：ははは。流行りましたからね。



**まる**：夢から覚めてからは、ギターに取り憑かれました。ギターを始めたのは小学校6年生の時だったので、最初は握力も弱く全く弦が押さえられなかったんです。よくFで挫折するって言いますよね。小さな子どもの手では確かにきつい。でもだんだん音が出るようになって楽しくなってきた…未だにやってる（笑）。自分で言うのも変ですが、ギターがホントに好きなんだろうね。

ギターを始めたらず「ド」の位置を全て覚えて。それを基準にスケールを覚える。ドレミファソラシドはCメジャー。マイナスケールやペンタトニックを覚えて、コードを覚えて…「ド」から数えて3番目の「ミ」の音をフラットにするとマイナーコードになるとか…。練習はもちろん、勉強もしましたよ。アコースティックギターに転向して2年くらいで押尾コータローをコピーし始めて…自分はすごいと錯覚したんですよ。そこから10年、奥が深くって…自分が下手だと思えるようになって、奥の深さが身にしみてきたんです。可能性もあるんですが…。テクニックも付いて上手く弾けるようになればなるほど、自分が下手だということに気付かされるんです。ギターやっている人は、大概そこに気が付きますね。そこからですよ、ギターに魅せられて突き詰めていく人の苦悩が始まるのは（笑）。

弾き語りの人は多いですが 10 人いたら 7、8 人は弾き語り。これ以上のことをしたいと突き詰めていく人は 2、3 人ですね。そうすると、練習だけではなくて勉強も必要になるんです。勉強するかしないか、勉強している人はそこから深めていくことができます。僕はセンスはないと思っているんです。でも好奇心はむちゃくちゃあります。それに努力もします。練習は一週間空けると怖いんですよ、感覚が鈍るのがわかるので。だから毎日 2 時間は最低でも弾いています。10 年くらい続けてます。

**小原：**目標としているギタリストとか、どんなギタリストになりたいとかは？

**まる：**押尾コータローは気になるギタリストです。作曲だったり、アレンジ力だったり。叩くという奏法が嫌いとか弾きかたが荒いという人もいますが、でもカッコ良いですよ。ライブとかだとトークも含めて面白いんですよ。好きなミュージシャンのライブでも、2、3 時間聴いたら飽きてくるけど、押尾コータローのライブは飽きない。押尾コータローのように、規模が大きい芸文館などでやれるギタリストは少ないんですよ。それに彼は、CD を出すたびに新しいテクニックが入っているんです。他には、岸部眞明さんが好きです。大阪で活躍されているプロギタリストです。5 年くらい前は岸辺さんのオープニングで弾いていたんですが、最近はあまりお会いしていません。あとは、オーストラリアのギタリストのトミー・エマニエルや、岡崎倫典さんが好きです。

やはり彼らみたいに、何か人に影響を与えられるようなギタリストになりたいですね。カッコ良く言えば、僕のギターで楽しさや、癒しや、ワクワク感、やる気、様々な感情を共感してもらって、「なんか元気でたー！」って思ってもらえると嬉しいです。

**小原：**音楽って、その時々自分の感情に寄り添ってくれますよね。ギターの音色はほんと心にすーと入ってくる心地よい音色だし、まるさんが思っている以上に多くの人の心に響いているかもしれませんよ！

今後の活動や、どういう風になりたいとか、視聴者に伝えたいことなどはありますか？

**まる：**最終的には映画音楽などをやりたいんです。ドラマとかでもいいんですが、「仁」ってドラマがありましたよね。あのテーマがとても好きで。それでそれぞれのシーンに合った曲を書いたらどんな感じだろうと思って…。

今は、テレビせとうち (TSC) の天気予報や番組の挿入歌として曲を流してもらっているのですが、やはり自分の曲が流れているのを聴くと感動するんです。まだテレビせとうちの視聴エリア、岡山、香川、姫路、福山までしか流れてないんで、全国で流してもらえるようになりたいですね。



**小原：**先ほどちらっと言われましたが、「気まぐれ！メンズトーク」の放送の 2 日後 (6/20) に大阪でライブがあるんですよ。ライブの情報は HP か facebook で告知されてるんですか。

**まる：**はい、「まる 倉敷 ギタリスト」とかで検索していただければヒットします。夏はイベントが多いので予定を空けているんで、ライブは控えているんです。秋頃から地元倉敷でワンマンライブ

株式会社エミリンク (小原整骨院)

や、ライブハウスにも出ますので、ぜひ見に来て下さい。玉テレホールでワンマンライブも毎年やっています。150人くらい集まってくれるんですよ。

小原先生、今回取材していただいて、ありがとうございました。

小原：こちらこそ、ありがとうございました。目の前で弾いてもらえるとは思っていなかったんで、嬉しかったですよ。生音のインパクトってすごいですね。感動しました。今後是非頑張ってください。放送でもよろしくお祈りしますね！

.....



■ まる

<http://sologuitarmaru.web.fc2.com/index.html>

ディスコグラフィ

1st 時を運ぶ船（2007年発売）

- 01.シューティングスター
- 02.骨々の日曜日
- 03.真夜中のシーソー
- 04.夕焼け時の霞橋（天気予報）
- 05.空色のLove Song
- 06.虹
- 07.走れアライグマ
- 08.時を運ぶ船

2nd 茜空の帰り道（2009年4月発売）

- 01.鼓動
- 02.SUMER DAYS
- 03.涙の後には、、、

- 04.カモンカマーチ
- 05.あなたに会えてよかった
- 06.H a p p y H o l i d a y
- 07.パンチ ドランカー
- 08.桜
- 09.キラキラ
- 10.赤い月
- 11.茜空の帰り道

3rd Only for you (2011年8月発売)

- 01.C y c l i n g R o a d
- 02.星空の下で
- 03.赤い月
- 04.F r e e d o m
- 05.懐かしき日々よ
- 06.いつかきっと・・・
- 07.S p r i n g R u n n e r
- 08.笑顔溢れる場所 (天気予報)
- 09.そら
- 10.サラン
- 11.キラメキ
- 12.夕焼け時の霞橋
- 13.真夜中のシーソー
- 14.9フレットからおめでとう

4th ハジマリの唄 (2013年4月発売)

- 01.ハジマリの唄
- 02.卒業写真
- 03.春風のメロディー
- 04.桜の咲く頃に
- 05.緑橋
- 06.茜空の帰り道

■ 小原整骨院 (本院)

〒712-8014 倉敷市連島中央 2-3-22 TEL&FAX : 086-444-9595

受付時間

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
8:00~13:00	○	○	○	○	○	○	×
15:00~19:15	○	○	○	×	○	×	×

こはら鍼灸整骨院（倉敷分院）  
〒710-0003 倉敷市平田 615-1 TEL : 086-486-3363